



TOYOHASHI ARTS THEATRE
PLAT



vol. **62**



TOYOHASHI
 ARTS
 THEATRE
PLAT



7

- 8 [土] ウェイウェイ・ウー ニ胡コンサート 無限の調べ〜「∞Infinity∞」in 豊橋
 ◎PLAT主ホール
- 8 [土]—9 [日] JACROW『さくろのような』『つながるような』◎PLATアールスペース
- 11 [火] シス・カンパニー公演『ヴィクトリア』◎PLAT主ホール
- 11 [火] 気まぐれコンサート〜小川恵司氏を偲んで〜◎PLATアールスペース
- 17 [月・祝] 和太鼓 志多ら つながる和太鼓「陽かりさす」◎PLAT主ホール
- 19 [水]—20 [木] 豊橋演劇鑑賞会 第297回例会
 文学座公演『昭和虞美人草』◎PLAT主ホール
- 20 [木] プラットワンコインコンサート 濱田紗治伽「打楽器の宴」
 ◎PLATアールスペース
- 23 [日] 第6回 藤城抄知子バレエアカデミー発表会◎PLAT主ホール
- 25 [火] 小山貴成&波多野董スペシャルデュオ
 心ゆさぶる低音と魅惑のアンサンブル◎PLATアールスペース
- 29 [土] 映画『プリズン・サークル』上映会 & トーク◎PLAT主ホール
- 29 [土] アイゲンアート・ミュージック presents 峯島望美ソプラノリサイタル
 ◎PLATアールスペース
- 31 [月] 松竹大歌舞伎◎PLAT主ホール

8

- 5 [土]—6 [日] PLATダンス・レジデンス作品集
 康本雅子『全自動煩悩ずいずい図』◎PLATアールスペース
- 8 [火] プラット親子わくわくプログラム2023/若手音楽家育成事業
 MuSA「チューバとマリンバの夏休みコンサート」◎PLATアールスペース
- 9 [水]—10 [木] 『ピエタ』◎PLAT主ホール
- 11 [金・祝]—13 [日] ハートグローバルミュージック
 アクトリーツアー 2023 夏in豊橋
 ◎PLAT主ホールほか
- 15 [火] 桜丘高校和太鼓部「桜花太鼓」自主公演◎PLAT主ホール
- 19 [土] プラット親子わくわくプログラム2023『くるみ割り人形外伝』
 ◎PLAT主ホール
- 19 [土] 佐々木バレエスタジオ おさらい会2023◎PLATアールスペース
- 20 [日] 第56回日本民謡研究会東三支部 民謡まつり◎PLAT主ホール
- 25 [金]—27 [日] お店をつくらう!小さなまちづくりプロジェクト
 ◎PLATアールスペース
- 27 [日] 鈴木馨バレエスタジオ発表会「THE ODORI VOL.44」
 ◎PLAT主ホール

CONTENTS

目次

- 1 目次
表紙の顔
- 2 INTERVIEW:1
康本雅子『全自動煩脳ずいずい図』
固定観念から自由に、
あらためてダンスと出会うために。
康本雅子
- 5 INTERVIEW:2
JACROW
『ざくろのような』
一見普通に見える組織だけど、
中に入ってみると
グロテスクな組織というのとはどこにでもある。
中村ノブアキ
- 7 COLUMN
松竹大歌舞伎
穂の国とよはし芸術劇場で楽しむ歌舞伎
「菊畑」と「土蜘蛛」によせて
～イケメンヒーローと悪役スパイダーマン～
- 9 INFORMATION
PLAT主催公演情報
- 13 PURA PURA
バラコの寄り道ぶらぶら
芸術監督として、これからの5年。
- 14 SPONSOR
SUPPORT
TICKET CENTER

INTERVIEW

インタビュー



康本雅子[やすもと・まさこ]
1999年よりダンス活動を開始。国内外にて自作品を発表するほか、演劇やミュージックビデオ、広告への振付など多岐に渡るジャンルにおいて活動。音楽家とのコラボレーションも多数行っている。近年は小学生や高校生との創作や、自ら主催して小学生向けの性教育ワークショップを行うなど活動の場を広げている。2019年に穂の国とよはし芸術劇場のダンス・レジデンスにて滞在制作で創作したダンス作品「全自動煩脳ずいずい図」を2020年に京都にて発表。同年、東京、北九州にてリクリエーションの上、再演。2023年に再リクリエーションし、穂の国とよはし芸術劇場と横浜にて上演する。20年よりセゾン文化財団セゾン・フェローアーティスト。



中村ノブアキ[なかむら・のぶあき]
1967年生まれ、千葉県出身。JACROW代表・脚本家・演出家。横浜国立大学在学中に演劇活動開始。卒業後、サラリーマンとして働きながら演劇活動続ける二足の草鞋を履く演劇人。社会的なモチーフで人間を描く会話劇を得意とする。青年座や椿組など、外部団体に脚本提供も積極的に行っている。

COVER

表紙の顔



映画『ブリズン・サークル』上映会 & トーク
平田満[ひらた・みつる]
愛知県豊橋市出身。つかこうへい事務所にて俳優活動をスタート。映画・テレビ・舞台などに数多く出演。映画『蒲田行進曲』で日本アカデミー賞主演男優賞など受賞。舞台『こんにちは、母さん』『ART』『THE NETHER』で読売演劇大賞男優賞を、『海をゆく者』『失望のむこうがわ』で紀伊國屋演劇賞を受賞。2006年アル☆カンパニーを設立。『(お)もろい夫婦』以来、『荒れ野』『POPPY!!!』などを制作、出演。PLATの初代芸術文化アドバイザー。2018年4月より同劇場アソシエイトアーティストに就任。



『くろみ割り人形外伝』
作・演出 根本宗子[ねもと・しゅうこ]
1989年生。19歳で劇団、月刊「根本宗子」を旗揚げ。以降、すべての作品の作、演出を手掛け、外部プロデュース作品での作、演出、出演も多数。2021年10月31日俳優活動終了。音楽家としてのタグで生み出すオリジナルの音楽劇や、配信作品を発表するなど、常に新しい演劇の形と向き合っている。2019年『クラッシャー女中』、2020年『もっとも大なる愛へ』等で岸田國士戯曲賞最終候補となる。2022年、自身初の小説『今、出来る、精一杯。』刊行。原作・脚本を担当した映画『もっと超越した所へ。』が公開。
音楽・演奏 小春[こはる](チャラン・ポ・ランタン)
昭和生まれ。妹・ももとの姉妹ユニット「チャラン・ポ・ランタン」のメンバー。アコーディオンを担当。7歳の時にサーカスを観に行ったことをきっかけにアコーディオンを始める。2021年9月に独立したタイミングで、自身がプロデュースした手頃な値段のボタンアコーディオン「Bebe Medusa」の予約販売を開始。一晩で531台売り上げる。映画やドラマ、舞台への楽曲提供・イラスト・執筆、動画編集など活動の範囲は多岐に渡る。

INTERVIEW

インタビュー



固定観念から自由に、
あらためてダンスと出会うために。
康本雅子 作・振付
聞き手 木村覚(ダンス研究・日本女子大学教授)

豊橋アーティスト・レジデンス「ダンス・レジデンス」で2019年に滞在制作した康本雅子。2020年に京都、東京、福岡と上演を重ねた最新作がリクリエーションされ、8月に再々上演されます。そこで最新作のこと、また現在ダンスが抱える問題についてお話を聞きました。

康本——最近私がすごく強く思うのは、多くの人にとって「ダンス」というとテレビやネットで出会うものだけなんです。世の中に垂れ流されている情報のみでダンスを捉えているのがとても残念で、また危険だとさえ思うんです。

——確かに、かつてに比べるとダンスのイメージは随分狭く限定的なものになっている気がしますね。
康本——子どもを対象としたワークショップでは、子どもたちから「早く(流行の)ダンスしようよ」とか言われることがあって。振り付けに従って音楽に合わせて体を動かすことがダンスと子どもたちは思い込んでいるので、終わってから「今日はダンスしなかったね」とか言われてしまうんですね。

——確かに、たとえばtiktokっていわばダンスのカラオケで、指示通り体を動かすと、なんとなく踊った気になれるのかもしれない。けれども、果たしてそれはダンスなのだろうか？際限なくあわした映像を浴びていると、社会が課してくるルールに黙って体をはめ

込むことがダンスだと思い込んでしまうくらいがある...確かに危険ですね。

康本——ダンスに限らず、情報化社会がもたらす固定観念の限定や危険に気づいてほしいんです。自分の頭で考え、自分の体で感じてほしいんです。たとえば、ダンスを見ていると「(ダンスが体に)入ってくる」ときがあると思うんです。わかるわからない、じゃなくて。私は共感よりも「共振(共震)」が大事だと思っています。共に震えながら、相手を体で受け止める。自分の皮膚感覚で受け止めた「身体的な体験」は能動的で、ただ「見て楽しかった」とは異なる経験です。

——今の世の中、みんなきゅうきゅうとしていますね。あらゆる場面で社会の『振り付け』に従わざるをえず、同調圧力に自分を見失うこともあるでしょう。振付家、ダンサーである以前に、個人としてまた母親として康本さんもそうした社会に生きていて、その実感が作品に色濃く影を落としているんですね。

康本——自分の子どもに関しても、母親としての自分の思いとは別に、あつという間に自分の手を離れて、俗世間にまみれて成長していくわけです。そうすると否が応でも色んな価値観や考えに惑わされる訳なので、そうなる信用できるのは自分の体を通して得た感覚であって、これだけは誰にも侵害できない自分だけのもの、という気がするんです。

——その感覚が社会のルールからはみ出ることもある

『全自動煩脳ずいずい図』

MEMBER

ダンサーたちは運動の反復を繰り返すことで無我になりかけるギリギリまで行くんです。

その元にあるのは、どこを見ても変わらずシーンが展開されている絵巻物感なんです。

— 確かに、動きの反復を繰り返す点では、ダンサーたちがいつからあんなことになってしまっているのか!?!という発端も終端もわからずただそうになっているみたいな舞台ですね。

康本— それと、お客さんにこの「図」の世界に入り込んでもらうには、ある程度の反復が必要だと思っています。何度か繰り返すことでこの世界に吞まれていってもらいたいのです。

— 観客として見てみると、体がほかほかしてくるんですよ(笑)。自分の体にダンスが侵入してくる感じがあるんです。じゃあ「全自動」の意味は?

康本— 「全自動」は、自分の欲望って、果たして自分のものかわからない、欲しているのか欲するよう促されているのか、揺らいでいる自分がいると思うんです。たとえば、子どもを愛することも「子どもを愛せよ」と無条件に私たちに埋め込まれたものかもしれない。一旦モラルで抑えているだけで、暴力性も含めて、あれこれと出どころの知れん欲に突き動かされている側面が私たちにはあります。

— なるほど。自分の中のままならない部分と出会うというわけですね。

康本— また、出演するダンサーたちは運動の反復を繰り返すことで無我になりかけるギリギリまで行くんです。本当に無我になったらおしまいなんだけど、その手前までちゃんと行かないと。私は舞台のダンサーが冷静なままだとダメだと思っているし、これちゃんとやらないと私もダンサーたちも飛ばないんだよね。ただそこで動いてるだけ、になってしまう。

— 自分の意思で踊っているレヴェルを超えて、何かに踊らされているくらいにならないと踊っていることにならない。

康本— そう、飛ばないと。少なくともこの作品は、そこまでやらないと。ダンサーもお客さんも「白紙状態」にまで至らないと。私がダンスを見に行くのは自分が「白紙」の状態になりたくて、見に行くんです。一瞬でも「白紙」になれば、自分がリセットされたような気持ちになれるんです。

— そこにもかかると思うのですが、康本さんの公演を観るたびに、私はそこに「生命」(生も性も含む)がとり扱われていると感じます。モラルや社会規範やネットが伝える情報などが今の私たちの体にはびっしりと幾重にも貼り付いてしまっている。けれども、そういう澱を突き破ってくる力に出会いたいと康本さんは感じていて、そうした「生命」へ向けた康本さんの眼差しが舞台を満たしているんです。

康本— 「白紙状態」まで行けば、頭ばかりで考えるしんどさから一瞬抜けられるでしょうし、それによって「逃げ場」としての身体を手に行きたなら、それを日常で使うことも可能でしょう。それは「自分の体を思い出す」ということと同じなのかもしれません。

起承転結もなく人間の生態をあらわしたものにしたい。

でしょう。

康本— はみ出たところが手垢のついてない本来の感覚だったりもしますよね、、でも私は体感としてそういう経験があるからそう言えるんであって。一度もはみ出た経験のないまま、小学校からコンプライアンス偏重でマニュアルばかりを教えられる状況に暮らしていたら、わからなくなってしまうと思う。

— はみ出ること=悪、みたいなね。

康本— そうそう。でも、ひととひとが付き合うときに、それを許さなかったら、絶対自分がきついはずですよ。本当は(人生なんて)はみ出ることだらけなんだから。性教育のワークショップを実施しているのも、自分の皮膚感覚で受け止めたことがすべてであり、マニュアル的に「こう言われたら、それは悪いこと」みたいな話では片付かないことについて感じ、考えてほしいからやっています。自分の皮膚感覚で受け止めてOKだったら自分の中ではOKなんだよ。って私は思ってる。

— ワークショップでは、誰かから体に触れられたとき、それがどんな気持ちを生むのか子どもが確認する、といったワークを行っていますね。

康本— 例えば身内であったとしても、もし嫌な感じがしたらそう自分が感じたことが全てであって、それをまずは確認してほしいんです。脳の判断以外にも皮膚で判断することもあるよ、と。

— 情報という「激辛カレー」で麻痺してしまった体が、あらためて、微妙で豊かな世界の味わいを取り戻すこと、なのかもしれませんね。

康本— 今は人類史上、一番その部分が退化している時代なんじゃないかなと思っています。文明が進化すればするほど、身体を使わなくて済むから。

最新作『全自動煩脳ずいずい図』について

— 『全自動煩脳ずいずい図』というタイトルが面白いですね。私などは康本さんらしい言葉遊びだなあと感じてしまいます。タイトルの説明から、この作品を紹介してもらえますか。

康本— 「煩脳」とあるので、ご覧いただいたお客さんの中には、作品のなかにあれも煩惱かなこれも煩惱かなと、「煩惱探し」をされる方もおられるようで、、でも、タイトルに作品の答えを込めたつもりはなく、一応、わかりやすく意味が固定されない絶妙なところを狙っているつもりです。ちょっとイメージできるその手前を「ずいずい」で外す、みたいな。あと、当初から作品全体を「絵巻物みたいになりたい」ということは考えていて、

— タイトルの「図」って言葉とかかわりますか?

康本— そう。起承転結もなく、人間の生態をあらわしたものにしたいと思っています。ずっと、絵巻物が延々と終わらないみたいに、観客を取り囲むサウンドでやってもいいかな、みたいな。ダンスのなかにある動きの反復が頻繁に出てくるのですけれど、



一見普通に見える組織だけど、
中に入ってみると

グロテスクな組織というのはどこにでもある。

中村ノブアキ

脚本・演出

聞き手 矢作勝義 穂の国とよはし芸術劇場PLAT 芸術文化プロデューサー

7月8日[土]・9日[日]14:30開演

*短編二人芝居『つながるような』7月8日[土]17:30開演

脚本・演出＝中村ノブアキ

出演＝小平伸一郎、狩野和馬、宮越麻里杏、
谷仲恵輔、福田真夕、芦原健介、佐藤貴也、吉田テツタ、堤千穂
会場＝PLAT アートスペース

JACROW

『ざくろのような』

「会社とは」「働くとは」を問いかける。
企業戦士たちの物語。

矢作——まずは、JACROW(ジャクロウ)とはどういう劇団なのかをお聞かせください。

中村——企業モノや政治モノ、そういった社会的な背景を基にした、ひとりひとりの悲哀や悲喜劇を描いている2001年に立ち上げた団体です。

矢作——演劇は大学時代から始めたのでしょうか。

中村——そうです。大学時代は役者でした。

矢作——そうすると、劇団立ち上げまでにブランクがありますが。

中村——普通に会社員として働いていました。

矢作——働いていたけど、やはり演劇をやろうと思ったのでしょうか。

中村——そうです。とある社会人劇団から客演で呼ばれ、出演したら血が騒ぎ出し、やはり演劇をやりたいと思い劇団を立ち上げました。集めたメンバーが俳優ばかりだったので、自分で劇作も演出もやるしかないと思い、我流で初めました。立ち上げ当初は劇団員はなくて、私一人のプロデュースということで、公演毎に俳優を集めるというスタイルでやっていました。2005年頃に女優が一人加わり、二人で暫くやっていましたが、2015年くらいから少しずつ劇団員が増えて現在10人となりました。

矢作——我流で始めたところから、劇作家・演出家としてある程度のレベルまできたと感触を掴んだのは、いつ頃でしょうか。

中村——それは、今回上演する『ざくろのような』の初演(2015年)です。これでようやく劇作家・演出家としてやっていける手応えを感じました。なので、この作品にめちゃくちゃ思い入れがあります。

矢作——次に、今回の作品について伺います。『経済三編』と銘打った企業ものの三作品のうち、プラットフォームでは『ざくろのような』とそのスピンオフ的な『つながるような』の二作品を上演します。まず『ざくろのような』で描かれている、リチウムイオン電池の開発をめぐる企業の話をお伺いいただけますか。

中村——それは、日本の大手電機メーカーによる企業買収の話を描いた一冊の本です。たまたまそれを読んだら、その中の人達の苦しみに共感し、新たな創作劇として立ち上げることを思いつきました。

矢作——企業の中の開発の話を描くにあたり、実際に開発に携わっている人が見た時に、嘘くさいと思われないようにするために、どのようなことをしたのでしょうか。

中村——専門書とかネットとか、あと僕の大学時代の友人にたまたま電池の開発に携わっている人がいたので、どういう服を着て実験して、どういう会話をしているのかなどという話を聞きました。

矢作——またヘッドハンティングについても描かれています。これも本の中に出てきたものですか。

中村——それは完全にフィクションです。実は、本当の話で一つあったのは、買収されることになる企業のエンジニアがある日行方不明になり、仲間が探してみるとどうやら韓国の電機メーカーに転職しているらしいと

分かり、問い合わせをしたら「そんな人はいません」と回答されたという話。彼は今どこにいるか本当に分からない。という話を読んだ時に、日本人の技術流出を背景にしたヘッドハンティングだなというのを勝手に想像し、相手企業を中国の企業に変え、中国から日本人技術者を引き抜くという話を思いつきました。

矢作——その後の状況を見ると、まさしく今日的というか、初演から数年後には現実的になってきた感じがします。

中村——そうですね。今や日本は本当に立ち遅れているので。

矢作——今回の作品では、中心となる二人の開発者の関係性がとても象徴的ですが、この二人についてはどのように演出したのでしょうか。

中村——僕自身の性質は完全に狩野和馬が演じるサブリーダーの薫派です。組織人間で、いわゆる組織に従順なタイプです。そうすると、その薫から見た小平伸一郎演じるリーダーの野間の存在はめちゃくちゃ憧れになる。

お客様もきっと多数が、野間みたいな生き方は憧れだけど、あんなことはできないよね。あんな一匹狼的にはできないよねと感じるだろうと考えたので、とにかく薫のリアルさをとことん追求してこだわりました。とにかく薫がお客様を代表する立場であり、野間はある種ヒーローに見えるけれども、悪役でもある。そういう関係性の中で伝わるように演出したつもりです。

矢作——次に『ざくろのような』のスピンオフで『つながるような』という短編作品について伺えますでしょうか。

中村——『ざくろのような』に出てくる野間とその奥さんの、その後の二人の物語です。まさにコロナ禍で、2020年にいろんな会社がマスクを作り出し、それを電機メーカーまでもがマスクを作り出したことを知り、話を膨らませました。

矢作——最後に、JACROWを初めて見る人に対して何かメッセージをいただけますでしょうか。

中村——今回上演する『ざくろのような』の「ざくろ」は、外見はおいしそうに見えるけど、中はものすごくグロテスクな果実で、これはJACROWの劇団名の元ネタでもあります。一見普通に見える組織だけど、中に入ってみるとぐちゃぐちゃしているとかグロテスクな組織というのはどこにでもあるし、いろんな人がそこに思いを抱えている世界を描いているので、自分事として見るができる作品だと思います。

『つながるような』は、2020年のコロナ禍で、世間が大騒ぎしている中で作られた20分の小編です。『ざくろのような』に比べると、ちょっと見やすくなっていると思うので、二作品をセットで見いただけると今の日本の置かれている状況だとか当時のコロナのこととかも思い出され、きっと感じることも多くあると思いますので、多くの方に見ていただきたいと思います。

矢作——ありがとうございます。

松竹大歌舞伎の巡業公演がまる三年ぶりに復活したことはとてもうれしい。そこで「ぶらっと」で上演される作品の魅力、見どころを紹介したい。

「菊畑」

幕が開くと一面の菊。「畑」といっても花木の造園ではなく、お屋敷の庭園だ。主は吉岡鬼一法眼。平家全盛の時代、清盛に仕える文武両道に秀でた老人。真っ白い髭が印象的。陰陽師として知識が豊か、剣術にも優れ風格がある。しかし心の底が知れぬ謎の人物。この館に牛若丸が名前を隠して奉公し、鬼一が所持している兵法(戦の攻め方)を記した巻物を奪おうという物語が展開する。牛若丸はのちの源義経。源平の合戦でなぜあんなに強かったかという秘密がこの芝居でよくわかる。

菊畑の中央に智恵内ちえないがいる。繻子奴しやすやつこという色気のある扮装。庭掃除をしている奴さんだ。そこへ腰元とともに、杖を突きながら鬼一が登場。この杖は漆塗りで取っ手に鳩が彫られている上等なステッキ。持ち方も独特。近くの方は必見。

第一声が「咲いたわ咲いたわ」と満足気。そのあと義太夫の語りにある「主殿司」「御垣守」「京小袖」などは菊の銘柄。難しい言葉が出てくると思考がストップしそうだが、菊の誉め言葉なのだとして軽く考えよう。智恵内の掃除の仕方を褒め、同じ熊野の出身だと語る鬼一。

実は智恵内の本名は吉岡喜三太きざんた。鬼一の実の弟。しかし鬼一は、幼いころ別れたため顔を知らない。兄弟の父はもともと源氏方、しかし、鬼一は清盛に奉公、弟は牛若丸を守るため、身分を隠しているのだ。

そこへ、美しい姿の若衆奴・虎蔵が帰ってくる。美男のはず、これがイケメンヒーローの牛若丸なのだ。歌舞伎はなにも知らなくても楽しめるが、「鬼一の兄弟」とか「実は牛若」など知っていて見ると何倍も楽しめる。このあと鬼一は智恵内に虎蔵を「杖で打て」と命じる。ここがポイント。理由は外出に同道した姫君を伴って帰ってこなかった落ち度。命令されても牛若は主人なので智恵内は困惑。ここは弁慶が義経を打つ「勧進帳」の場面に重なって見逃せない。

このあと姫君・皆鶴登場。一気に華やかになる。牛若に恋をしている。また横恋慕する清盛の重臣、湛海。見るからに悪そうで鬼一の家を乗っ取る企み。歌舞伎ならではのキャラクター様々を楽しめる。虎蔵は姫の恋心を利用して「巻物」を手に入れようとするが…実は姫は虎蔵の正体を知っていて…と思わぬ方向に…

今回は上演されないが、やはり知っておくとさらに楽しめる秘密をお教えする。牛若丸が鞍馬山で天狗から剣術指南を受けたのは有名な伝説。その大天狗が実は鬼一法眼で、源氏に心寄せていたことが後で判明。また「巻物」は皆鶴姫に託し牛若と結婚させる。鬼一は責任

COLUMN

穂の国とよはし芸術劇場で楽しむ歌舞伎

「菊畑」と「土蜘蛛」によせて

～イケメンヒーローと
悪役スパイダーマン～
葛西 聖司



松竹大歌舞伎

演目Ⅱ鬼一法眼三略巻「菊畑」

新古演劇十種の内「土蜘蛛」

出演Ⅱ尾上松緑ほか

会場ⅡPLAT主ホール

7月31日(月)12:30開演 17:00開演

を取って切腹して果てる…という壮絶な物語が、この幕のあと展開する。冒頭「底の知れぬ謎の人物」とかいた「底」はこれ。じっくり楽しみたい。ちなみに巻物の正式名称は「六韜三略」その中の「虎の巻」をめぐる物語。試験勉強で使った「虎の巻」の語源である。

「土蜘蛛」

新古演劇十種というサブタイトルがつく。これは市川團十郎家の「歌舞伎十八番」同様、尾上菊五郎家の得意の出し物、いわば家の芸として明治時代に、五代目菊五郎が制定したものの一つという意味。明治時代、文明開化と国際化の時代。高尚な日本の伝統文化としての歌舞伎を作る風潮のなか、能の「土蜘蛛」を原作にして生まれた歌舞伎舞踊の名作である。

背景には能舞台の鏡板を踏襲し「松羽目」という大道具で老松が描かれ、五色の幕が下手と花道の鳥屋口に配され能楽由来を象徴している。大江山の酒吞童子を退治した英雄、源頼光が土蜘蛛の精に襲われる物語。

土蜘蛛とは本来、中央政権になびかない地方の豪族などの意味だが、為政者側は「蜘蛛」「鬼」などと呼んで不気味なイメージを与え、その壊滅をめざしていた。

舞台は「頼光の館」頼光は風邪で療養中。舞踊劇なので随所に見どころある踊りが展開する。侍女の胡蝶が薬を持参し、頼光を慰める踊りもそれだ。都周辺の紅葉が美しいと高雄、嵐山などの錦織なす風景をあでやかに描く。最初の見どころ。機嫌よく就寝する頼光に怪しい僧が現れる。ここが次のポイント。幕の音もたえず、照明も薄暗い中、ふと気づくと立っている。ぞつとする。比叡山の高僧が見舞に来た。名前は智壽ちじうという。出家し諸国修行の旅をした体験を踊る部分が見せ所だが真夜中の訪問は不気味、名前の「ちちゅう」とは「蜘蛛」の音読み。正体は蜘蛛!!いきなり蜘蛛の糸をまき散らし襲い掛かる急展開。悪役スパイダーマンの登場だ。結局、頼光が斬りつけると血を流して逃げてゆく。花道の付け際に伏す姿が蜘蛛の形を表している。必見。

場面はかわって大きな塚が運ばれ、土蜘蛛の棲み処の場面が変わる。蜘蛛の血痕をたどってやってきたのは渡辺綱わたべつなら四天王と平井保昌やすむね。塚の中から、土蜘蛛が正体を現す。錦の能装束に身を包み、顔には恐ろしい気な隈取。これが蜘蛛の巣をかたどっている。蜘蛛の糸をまき散らしながら戦う場面が見どころだが、能楽から伝授された特殊な糸を繰り出す。遠くまで飛び、後見が一瞬にして巻き取る技は鮮やかだ。さらに軍卒八人が蜘蛛にとりつく時、左右に四人づつ組み付くと、八本の蜘蛛の足になるところも見逃せない。

最期はさすがの蜘蛛の精も力尽き頼光の家来たちの刃に倒れる。長唄囃子連中の生演奏とともに存分に歌舞伎らしさを味わえるだろう。

今回の巡業では豊橋公演が千秋楽。座頭の尾上松緑以下の豪華な顔ぶれで、その成果を発揮してくれることだろう。

『Shakespeare's R&J

～シェイクスピアのロミオとジュリエット～

6/24 [土] 13:00 開演

6/25 [日] 13:00 開演

好評発売中

6月24日のみ

厳格なカソリックの全寮制男子校の寄宿舎で暮らしている4人の学生。4人は秘かに、禁断の書『ロミオとジュリエット』を題材に遊び始める！
現在も世界中で上演されているジョー・カラルコ脚色の作品を、今、最も旬な若手実力派俳優4人で上演します。
原作=W.シェイクスピア
脚色=ジョー・カラルコ
翻訳=松岡和子
演出=田中麻衣子
出演=北川拓実(少年忍者/ジャニーズJr)、木戸大聖、青木滉平(少年忍者/ジャニーズJr)、中田圭祐
会場=PLAT主ホール
料金=[全席指定]S席 6,000円、A席 4,000円ほか

JACROW『ざくろのような』

7/8 [土] 14:30 開演

7/9 [日] 14:30 開演

好評発売中

7月8日のみ

2023マイセレクト4

脚本・演出=中村ノブアキ
出演=小平伸一郎、狩野和馬、宮越麻里杏、谷中恵輔、福田真夕、芦原健介、佐藤貴也、吉田テツタ、堤 千穂
会場=PLAT アートスペース
料金=[全席指定]一般 4,000円、U25 2,000円、高校生以下 1,000円

【同時上演】

『つながるような』

7/8 [土] 17:30 開演

『ざくろのような』の後日譚を描いた二人芝居です。
料金=[全席指定]一般 1,000円、U25 500円
※終演後トークあり。



舞台写真 撮影:鈴木淳



託児サービス対象公演

要予約。生後6ヶ月以上。
お一人様500円。お申込み、お問合せはプラットチケットセンターまで



マイセレクト4 対象公演

マイセレクト4
2023

シス・カンパニー『ヴィクトリア』

7/11 [火] 14:00 開演

好評発売中

(共催)

大竹しのぶ、藤田俊太郎。注目の顔合わせで描く一人芝居。終演後、大竹しのぶとゲスト中井美穂さんによるトークあり。
作=イングマール・ベルイマン
演出=藤田俊太郎
翻訳=肥田光久
出演=大竹しのぶ
会場=PLAT主ホール
料金=[全席指定]S席 8,000円ほか

映画『プリズン・サークル』

上映会 & トーク

7/29 [土] 13:00 開演

好評発売中

取材許可まで6年、撮影2年一初めて日本の刑務所にカメラを入れた圧巻のドキュメンタリー。上映終了後、坂上香監督と平田満(PLATアソシエイトアーティスト)によるトークあり。

過熱する犯罪報道、厳罰化を叫ぶ声—
けれど私たちは、この国の「罪」と「罰」について多くを知らない。

「島根あさひ社会復帰促進センター」は、官民協働の新しい刑務所。警備や職業訓練などを民間が担い、ドアの施錠や食事の搬送は自動化され、ICタグとCCTVカメラが受刑者を監視する。しかし、その真の新しさは、受刑者同士の対話をベースに犯罪の原因を探り、更生を促す「TC (Therapeutic Community=回復共同体)」というプログラムを日本で唯一導入している点にある。なぜ自分は今ここにいるのか、いかにして償うのか? 彼らが向き合うのは、犯した罪だけではない。幼い頃に経験した貧困、いじめ、虐待、差別などの記憶。痛み、悲しみ、恥辱や怒りといった感情。そして、それらを表現する言葉を獲得していく…。

会場=PLAT主ホール

料金=[全席指定]一般 1,000円、U25 500円

※視覚に障がいのあるお客様のための「音声ガイド」サービスあり(要事前申込)

【関連イベント】

平田満企画

「対話を考える」vol.4

『哲学対話ワークショップ』

7/29 [土] 17:00 ~ 18:00

会場=PLAT主ホール
参加費=1,000円
対象=PLATで映画『プリズン・サークル』を鑑賞する高校生以上
定員=15人程度(選考、PLATで開催した哲学対話未経験者優先)
申込方法=6月23日(金)17:00までに①参加申込書を窓口、FAXにて提出②劇場ホームページの専用申込フォームより申込み。

松竹大歌舞伎

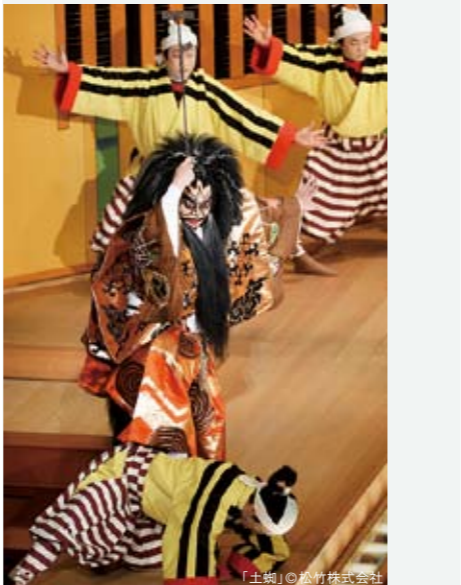
好評発売中

7/31 [月]

12:30 開演 / 17:00 開演

2023マイセレクト4

演目=鬼一法眼三略巻『菊畑』、『土蜘蛛』
出演=尾上松緑ほか
会場=PLAT主ホール
料金=S席 10,000円、S席ベア 18,000円、A席 7,000円、B席 5,000円ほか※小学生~18歳以下無料招待あり。
歌舞伎弁当・特製和菓子の予約受付中。
[特別協賛:サーラグループ]



「土蜘蛛」©松竹株式会社



PLATダンス・レジデンス作品集

康本雅子

『全自動煩悩ずいずい図』

8/5 [土] 14:30 開演

8/6 [日] 14:30 開演

好評発売中

2023マイセレクト4

8月5日のみ

会員先行=6月3日(土)
一般=6月17日(土)
作・振付=康本雅子
音楽提供=オオルタイチ
出演=小倉笑、菊沢将憲、小林 萌、小山まさし、鈴木春香、辻本 佳、村上 涉、康本雅子
会場=PLATアートスペース
料金=[全席自由・日時指定・整理番号付]一般 3,500円、U25 1,700円、高校生以下 1,000円



康本雅子

プラット親子わくわくプログラム2023 /

若手音楽家育成事業

MuSA「チューバとマリンバの

夏休みコンサート」

8/8 [火] 11:00 開演 / 14:00 開演

チューバとマリンバが動きながら演奏する!?世界的にとっても珍しい編成による、子どもも大人も楽しめる約30分のコンサートです。
出演=MuSA 佐藤美玖[打楽器]、森脇直哉[チューバ]
会場=PLATアートスペース
料金=[全席自由]入場無料(要整理券または劇場ホームページから要申込)※整理券は劇場1階窓口にて7月1日(土)10:00より配布開始。



森脇直哉 佐藤美玖

ぷらっとワークショップ

「流木アーティストになろう!」

8/8 [火]

10:00 ~ 10:45 / 13:00 ~ 13:45

流木の音と形と体でお話を作るワークショップです。
会場=PLAT創造活動室A
参加費=500円
対象=小学生以上
定員=15名(先着順)
申込方法=7月1日(土)10:00より①プラットチケットセンターの窓口・電話・FAXにて申込み②劇場ホームページの専用申込フォームより申込み。

プラット親子わくわくプログラム2023

『くるみ割り人形外伝』

8/19 [土] 14:00 開演

好評発売中

9月2日のみ

2023マイセレクト4

劇作家・演出家としての活躍目覚ましい根本宗子がPLAT初登場。世界中で愛されるバレエの名作『くるみ割り人形』をもとに、お芝居/バレエ/踊り/歌/音楽と見どころ満載のステージです。大道芸inとよはしでも圧巻のパフォーマンスをみせた姉妹ユニット、チャラン・ポ・ランタンにもご注目ください。
作・演出=根本宗子
音楽=小春(チャラン・ポ・ランタン)
出演=大橋凜乃 / 澤田杏菜(Wキャスト)、中村鶴松、一色洋平、もも(チャラン・ポ・ランタン)、山之口理香子
会場=PLAT主ホール
料金=[全席指定]一般 5,000円、U25 2,500円、こども(高校生以下)500円※4歳~18歳無料招待あり。



大橋凜乃 澤田杏菜



中村鶴松 一色洋平

『ピエタ』

予約枚数終了

(共催)

8/9 [水] 18:30 開演

8/10 [木] 13:00 開演

原作=大島真寿美「ピエタ」(ポプラ社)
脚本・演出=ベヤンヌマキ
音楽監督=向島ゆり子
出演=小泉今日子、石田ひかり、峯村リエ/広岡由里子、伊勢志摩、橋本朗子、高野ゆらこ/向島ゆり子、会田桃子、江藤直子
会場=PLAT主ホール



舞台写真 撮影:御堂義典

『エブリ・ブリリアント・シング』

9/1 [金] 19:00 開演

9/2 [土] 14:30 開演

9月2日のみ

2023マイセレクト4

9/3 [日] 14:30 開演

2020年に体験型演劇スタイルで高評価を得た一人芝居の再演。佐藤隆太の確かな演技力で、生きづらさを抱える人達への温かいメッセージを響かせます。
会員先行=7月1日(土)
一般=7月15日(土)
作=ダンカン・マクミラン、ジョニー・ドナヒュー
翻訳・演出=上田一豪
演出補=桐山知也
出演=佐藤隆太
会場=PLATアートスペース
料金=[全席自由・日時指定・整理番号付]一般 4,500円、U25 2,200円、高校生以下 1,000円

【関連企画】

『エブリ・ブリリアント・シング』

演劇ワークショップ

「世界は“ステキなこと”であふれてる!」

7/15 [土] 13:00 ~ 17:00

『エブリ・ブリリアント・シング』の世界観、参加者の経験、出会いを通して、小さなシーンづくりを行う演劇ワークショップです。
講師=桐山知也
会場=PLAT創造活動室A
参加費=1,000円
対象=高校生以上の演劇に興味のある方(演劇経験不問)
定員=20名(先着順)
申込方法=7月10日(月)までに①参加申込書を窓口、FAXにて提出②劇場ホームページの専用申込フォームより申込み。

アル☆カンパニー 『POPPY!!!』

9/15 [金] 19:00 開演
9/16 [土] 13:00 開演



2023 マイセレクト 4
9月16日のみ

平田満と井上加奈子によるアル☆カンパニーの新機軸であるアル☆カンパニー・ラボの『POPPY!!!』が早くも再演。ぐだぐだしているようにみえて意外にまじめで純情、そしてやさしく熱い、がんばらない人たちのがんばるお話。会員先行＝7月15日(土) 一般＝7月29日(土) 作・演出＝野田慈伸 出演＝平田満、井上加奈子、町田水城、平田耕太郎、徳橋みのり、青山祥子 会場＝PLATアートスペース 料金＝[全席指定]一般4,000円ほか ※15日(金)は終演後トークあり。



舞台写真

【関連企画】 野田慈伸 演劇ワークショップ 「少し過剰にはみだして 演劇ワークショップ」

8/5 [土] 11:00～13:30

本作で作・演出をつとめる野田慈伸さんによる、戯曲を用いた演劇ワークショップです。会場＝PLAT創造活動室B 参加費＝1,000円 対象＝高校生以上の演劇に興味のある方。(演劇経験不問) 定員＝15名(応募者多数の場合選考あり) 申込方法＝7月15日(土)17:00までに①参加申込書を窓口、FAXにて提出②劇場ホームページの専用申込フォームより申込み。

平田満企画 「対話を考える」vol.5 『哲学対話ワークショップ』

9/16 [土] 16:30～18:00

会場＝PLAT創造活動室B 参加費＝1,000円 対象＝PLATで『POPPY!!!』を鑑賞する高校生以上(演劇経験不問) 定員＝15人程度(選考、PLATで開催した哲学対話未経験者優先) 申込方法＝7月15日(土)10:00～8月18日(金)17:00に①参加申込書を窓口、FAXにて提出②劇場ホームページの専用申込フォームより申込み。

南イタリア伝統音楽 & 舞踊 灼熱のタランテッラ

9/17 [日] 16:00 開演



2023 マイセレクト 4

栄誉ある英国の世界ミュージックの賞SONGLINES MUSIC AWARDS“2018年度の最優秀グループ”賞を受賞したイタリア半島のかかと部分、プーリア州出身のグループ“カンツォニエーレ・グレカニコ・サレンティーノ”による南イタリアの伝統音楽&舞踊によるコンサートをお届けします。会員先行＝7月15日(土) 一般＝7月29日(土) 出演＝カンツォニエーレ・グレカニコ・サレンティーノ 会場＝PLAT主ホール 料金＝[全席指定]一般4,000円ほか※小学生～18歳以下無料招待あり。



カンツォニエーレ・グレカニコ・サレンティーノ

野村万作・野村萬斎 狂言公演2023

9/22 [金] 14:00 開演 / 18:30 開演



人間国宝・野村万作と、現代劇や映画でも活躍する野村萬斎ほか「万作の会」による狂言公演です。会員先行＝7月22日(土) 一般＝8月5日(土) 出演＝野村万作、野村萬斎、野村裕基、ほか万作の会 演目＝末広かり、月見座頭、越後聳 祝言之式 会場＝PLAT主ホール 料金＝[全席指定]S席5,000円、A席3,000円ほか ※発売日初日はお一人様1申込につき1公演4枚までの枚数制限有り。



野村万作

野村萬斎

【関連企画】 ワークショップ 「イタリア伝統楽器・タンブレロを体験する」

9/17 [日] 14:30～15:15

イタリア南部の文化に関する小話やダンスを交えて、イタリアの伝統楽器「タンブレロ」の魅力を伝えます。講師＝本公演出演者 会場＝PLAT創造活動室A 参加費＝無料 対象＝「灼熱のタランテッラ」チケットご購入の方 定員＝30名(先着順) 申込方法＝7月15日(土)10:00より①参加申込書を窓口、FAXにて提出②劇場ホームページの専用申込フォームより申込み。

ONE CON CONCERT ワンコインコンサート

若手音楽家育成事業 好評発売中 プラットワンコインコンサート

「若い音楽家には活躍の場を、お客様にはより音楽を楽しめる機会を」と企画されたPLATオリジナルのワンコインコンサートです。500円で贅沢なひとときをお過ごしください。会場＝PLATアートスペース 料金＝[全席自由・整理番号付]500円

7/20 [木]
14:00 開演

『打楽器の宴』

濱田紗治伽(打楽器)



濱田紗治伽

9/8 [金] 14:00 開演
『詩人アイヒェンドルフの森』

千賀さゆり&安成紅音リートデュオ
千賀さゆり(ソプラノ)、安成紅音(ピアノ)



千賀さゆり

安成紅音



ワークショップファシリテーター養成講座 昨年度の様子

WORKSHOP ワークショップ

インターンシップ2023 研修生募集

劇場の仕事や演劇・音楽・ダンスなどの舞台芸術に関わる仕事に興味のある方のためのインターンシッププログラム。音楽事業・ワークショップ事業の企画制作について、コースに分かれて体験的に学びます。 ※詳細は劇場ホームページをご確認ください。 料金＝1,000円(保険料実費等として) 定員＝各コース1～2名(応募者多数の場合は選考) 申込方法＝6月30日(金)17:00までに①申込書に必要事項を記入の上、窓口にて持参かFAX(0532-55-8192) ②劇場ホームページの専用申込フォームより申込み。



ワークショップファシリテーター 養成講座 2023 [前期]

長期的・継続的な視点でワークショップを進行する人材「ファシリテーター」を地域に育成する連続講座。前期では「ワークショップ縁日」に向けて、ワークショップをつくりながら進行について学んでいきます。 7月16日(日)～8月27日(日)【全7回】 講師＝柏木陽、すずきて一た、吉野さつき 会場＝PLATほか 対象＝18歳以上で極力全日程参加できる方。演劇経験不問。 料金＝3,000円【全7回】 定員＝20名(応募者多数の場合は選考) 申込方法＝7月7日(金)17:00までに①申込書に必要事項を記入の上、窓口にて持参かFAX(0532-55-8192)②劇場ホームページの専用申込フォームより申込み。

TICKET CENTER チケットセンター

チケットの購入・お問合せ プラットチケットセンター

●劇場窓口・電話 0532-39-3090[休館日を除く10:00～19:00]
●オンライン http://toyohashi-at.jp[24時間受付・要事前登録]
●チケット販売 販売初日はオンライン・電話のみ取り扱い。翌日以降、残席がある場合は窓口販売あり。

U25・高校生以下割引と案内

ほぼすべての財団主催公演に、若い人にお得な料金を設定しています。 ●料金＝U25[25歳以下]:公演ごとに指定する席種の半額/高校生以下:1,000円 ●購入方法＝各公演の一般発売初日から取扱い。 ●その他＝本人のみ1公演につき1人1枚。枚数限定。座席の指定はできません。要・入場時本人確認書類提示。一部例外あり。詳細は各公演チラシ・HPにて。



プラットフレンズ募集 入会金・年会費無料

特典 1 公演情報をメールでご案内します。 2 インターネットでチケット予約ができます。 3 主催公演のチケットを一般発売に先がけてご予約できます。 ※劇場窓口またはホームページから登録いただけます。

18歳以下のお子様を 無料で招待 [座席限定・事前申込制]

文化庁による子供文化芸術活動支援事業(劇場・音楽堂等の子供鑑賞体験支援事業)として、以下の公演が採択されました。ぜひこの機会をご活用ください。公演によって申込方法が異なります。詳細は劇場HPにてご確認のうえお申込みください。

7/31 松竹大歌舞伎
8/19 『くみ割り人形外伝』
9/17 南イタリアの伝統音楽 & 舞踊
灼熱のタランテッラ

10/19-22 ミュージカル『天翔ける風に』
2024/1/12-14 『海をゆく者』
対象＝公演当日に小学生～18歳の方
([くみ割り人形外伝]のみ4歳～18歳の方)

PLAT

バラコの
寄り道ぷらぷら

芸術監督として、 これからの5年。

桑原裕子

穂の国とよはし芸術劇場 PLAT 芸術監督

聞き手 矢作勝義

穂の国とよはし芸術劇場 PLAT 芸術文化プロデューサー



矢作—— PLAT10周年を機に、「芸術文化アドバイザー」から「芸術監督」に名称変更となりました。

桑原——10周年おめでとうございます。矢作さんはPLATの立ち上げから関わられて、今、劇場が育ってきたという感じはありますか。

矢作——ここ3年、コロナで一回止まってしまいましたが、一度足元から見直すという機会にもなったと思います。閉館以来思っていた以上に順調で、それは、豊橋演劇鑑賞会などがこの地で長年活動してきたこと、立地条件や演劇とダンスにフォーカスしたコンパクトな施設が、そういう状況を生み出したという気がします。

桑原——結果的に、ここでもう一つ高いクオリティーのものを目指せば、また違う形でお客さんが増える可能性もある。その夢に懸けるというか、長いスパンで見た時に、コロナ禍を、ある種ルネサンスみたいな復興期にしていけるかが私たちにかかっていると思いますね。

矢作——そのとおりです。桑原さんとはこの5年間をかけて、「ああ、何かやれるよね」と確認できたので、あと少なくとも5年は、アドバイザーから芸術監督として一緒に劇場のこと、舞台芸術界のことを考えていくことができると思っています。

桑原——この5年は、私の中では街の人たちを知っていくことから可能性を広げていくという機会だったと思います。市民と創造する演劇『甘い丘』は、コロナのど真ん中という一番大変な時に、「それでもやるんだね、私たち」と市民の人たちと分かち合ったのはすごく大きかった。

矢作——前アドバイザーの平田満さんは、地元出身というだけでなく、テレビや映画といったメディアによく出られる俳優で、名前も顔も皆さんご存知です。片や桑原さんは俳優だけでなく、脚本家、演出家という顔もお持ちです。桑原さんに演出をしていただいた市民と創造する演劇『甘い丘』でも分かったのですが、市民の皆さんの中には、KAKUTAの桑原さんが演出

をやるなら一緒に作品を作りたいという対象として桑原さんを見ていると思うのです。

桑原——もともとPLATは、私たち小劇場の劇団からすると憧れというか、ハイクオリティな作品をチョイスしている、さすが平田満さんのいらっしゃる劇場、というブランドイメージがありました。そこに、自分が入ったのならば、全然違うアプローチから行けなと。様々な創作を通じて、私自身がこの劇場に体温を感じていくのと比例し、街の人たちがこの劇場に温度を感じてくれるようになれば良いなと思っています。面白いもの、すてきなものが「観られる」劇場から、実際に自分たちも参加して「体験できる」私たちの劇場、という思いが広がって、あの劇場に行けば面白いことができると、東京だったり関西だったり、もっと違うところからも参加する人たちが増えたらいいなと思っています。

矢作——桑原さんがおっしゃったような、劇場がこの豊橋にあるんだ、東三河にあるんだ、という誇りを地域の皆様に持ってもらいたいと思います。

桑原——コロナ禍の世の中が大変な時に、劇場スタッフと一緒にPLATで文化祭『Art Platter』をやりました。将来に向けては、文化祭を街の人たちと、飾り付けや出店、パフォーマンスも、みんなでやりたい。それにむけて今、市民の皆さんとワークショップ形式で朗読演劇を作っています。面白そうな小説を限りなく演劇に近い朗読として見せることを、「市民と創造する演劇」や「高校生と創る演劇」に出演した人たちと創っている最中ですが、ゆくゆくは私がいなくとも、自分たちだけで、PLATで自由に企画したり、市民の人たちが自ら動き出したらいいなと。それがやがて水上ビルや図書館、のんほいパーク等とコラボレーションするようなことにも、より深く関わりたいなと思っています。

矢作——今年度上演するPLATプロデュース公演の『たわごと(仮題)』についてお願いします。

桑原——自分が書いてきたものを客観的に考えると、登場するのはいつも「寄り辺なき者たち」なんです。ちょっと日陰というか、ひさしの下やビルの隙間とか、割と人目に付かない作業場の裏側にいるような人たち。他者と強固な関係を築くのが下手で、社会との繋がりに揺らぎや歪みがある人たちにスポットを当てたい傾向がある。きつと『たわごと』にもこれらがキーワードとなって作品のエッセンスになると思います。昨今「生きづらい」という言葉が共通言語になってきましたが、以前、矢作さんに「桑原裕子ってどんな作品を書いていると思いますか?」と、分析してもらった時に言っていただいた言葉が「生きづらい世界で、それでも生きていく」という一言だったのです。コロナ後の逼迫した社会、この時代、他者とう向き合って「それでも生きていく」のか、という問いかけを持って創作したいと考えています。

このところコメディやショー要素のある本を描くことが多かったので、今、久しぶりに一番自分の正直なものを書ける機会なのかもしれません。実質的な執筆期間が短めで、震える思いですが、強力な6名のキャストが充実した時間を過ごしてもらうような濃厚な芝居を創りたいです。

矢作——豊橋と東京だけでなく、新しく劇場のできる岡山や、関係性を徐々につくり上げたロームシアター京都と繋がりがながら、全国ツアーも実施します。

桑原——それは本当に素晴らしいことですね。若い頃は演劇って東京か大阪に行かないとできないものと思っていましたが、今やその考えはなくなりました。豊橋が演劇の中心になったっていいし、岡山や京都などの地方がそれぞれ拠点になってもいいという気概で臨んでいる。また、地方の劇場同士が結び付いていくことができれば、全国どこにいても演劇が発展していく。これは、画期的なこと。それを豊橋から発信していくことで熱量として伝えていきたいなと思っています。

SPONSOR

広告募集

知識製造業
三遠機材株式会社
http://www.san-en.co.jp

YOSHINO ASSOCIATES
architect engineers
吉野設計研究所
http://www.440a.co.jp

魚伊
有限会社 魚伊
電話 52-5256

グロリアンピアノ地域特約店
白羽楽器 株式会社
電話 053-464-3015

ケンチク 701
KURONO ARCHITECT STUDIO
y.qlo0170@gmail.com

看板広告 **アラキスタジオ**
豊橋市上伝馬町16 電話52-5586番

本と文具なら
精文館書店
TEL.54-2345

ONOCOM なければつくる
株式会社オノコム

外科・内科・胃腸科・麻酔科・肛門科
医療法人栄真会 伊藤医院
豊橋市小池町字原下35 電話45-5283(代)

創業文政年間
森きく宗
豊橋市新本町40 電話52-5473番

調理と製菓のおいしい資格。
豊橋調理製菓専門学校
豊橋市八町通一丁目22-2 TEL53-2809

豊橋銀行協会 (順不同)
三菱UFJ銀行 みずほ銀行 静岡銀行 名古屋銀行
三井住友銀行 三井住友信託銀行 清水銀行 三十三銀行
十六銀行 愛知銀行 中京銀行 大垣共立銀行

創業江戸 御茶屋菓子専門店
若松園
御菓子司

気まぐれコンサート
事務局 / 0532-62-9259 (小川)

安心・安全な地下駐車場
パワ500
プラット主ホール・アートスペース公演等へのお客様は
30分150円を30分100円(上限4時間まで)に割引します。

整形外科・リハビリテーション科・リウマチ科・麻酔科
S医療法人 塩之谷整形外科
理事長 塩之谷 昌
豊橋市植田町閑取54 電話0532-25-2115(代)

豊橋名産 **舟ちくわ**

井上皮フ科クリニック
診療時間 月・火・木・金 10:00~13:00 16:00~19:00
土 10:00~14:00 休診日=水・日・祝
電話0532-55-7007 愛知県豊橋市向山町字中畑13-1マイルストーン1F

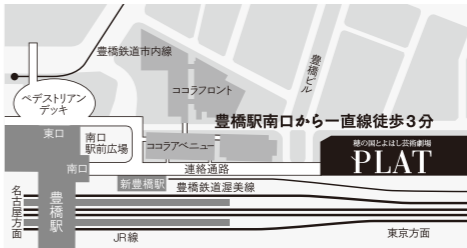
プラス・ワンの付加価値をお客様に提供いたします。
共和印刷株式会社
豊橋市小池町36番地の1 TEL46-3281 FAX46-3285

整形外科・皮膚科・リウマチ科・リハビリテーション科
医療法人 大岩整形外科・皮フ科
院長 大岩俊夫 豊橋市大橋通二丁目115 電話55-2100

伝統的工芸品豊橋筆
書道用品専門店
高誠堂
豊橋市呉服町四拾四番地 電話52-5514

ISO9001 ISO14001 愛知ブランド企業 認証・認定取得
株式会社 三光製作所
三光精密工業株式会社
豊橋市佐藤一丁目12番地の3

sala
サーラグループ



SUPPORT

特別賛助会員のご紹介

私たちは穂の国とよはし芸術劇場の活動を支援しています。

株式会社アイセロ

旭精機株式会社

株式会社イクモ

税理士法人イグラ会計

イノチオホールディングス株式会社

株式会社エクステージ

大和田和恵

株式会社オリエント楽器

医療法人佳道会 藤城歯科医院

蒲郡信用金庫

川西塗装株式会社

河原崎 妙

株式会社呉竹荘ホテルズ 豊橋ステーションホテル

株式会社三光製作所

三光精密工業株式会社

サーラエナジー株式会社

株式会社サーラコーポレーション

三遠機材株式会社

株式会社東雲座カンパニー

株式会社シュガーサウンド

大三紙業株式会社

トヨタネ株式会社

トヨネン株式会社

株式会社豊橋印刷社

豊橋芸術文化事業サポート株式会社

豊橋ケーブルネットワーク株式会社

豊橋信用金庫

豊橋鉄道株式会社

中野博三

早川直宏

株式会社平松食品

藤城建設株式会社

学校法人藤ノ花学園

株式会社豊川堂

松井商事株式会社

村田小児歯科センター

物語コーポレーション

有楽製菓株式会社 豊橋夢工場

若松園

匿名会員1名

(五十音順)

〒440-0887 愛知県豊橋市西小田原町123番地
電話=0532-39-8810[代表](9:00-20:00)
開館=9:00-22:00 休館日=第三月曜・年末・年始。
第三月曜が祝日の場合はその翌平日。
豊橋駅(JR東海道新幹線、東海道本線、名古屋鉄道)、
新豊橋駅(豊橋鉄道渥美線)直結。豊橋駅南口から徒歩3分。
※駐車場はありません。公共交通機関をご利用いただくか、
お近くの公共駐車場等をご利用ください。

穂の国とよはし芸術劇場 PLAT